



平成 31 年の新春を迎えて

一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会 会長
平野 聡 HIRANO, Satoshi
(株式会社トプコン 代表取締役社長 CEO)

平成 31 年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様には当協会の運営及び活動におきまして、多大なご協力ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年は 5 月 1 日の改元の日を控え、31 年間の平成から新たな元号に改められる、まさに節目の年となります。そして、開催が来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックの準備期間として、大切な 1 年となります。近代の国際イベントは、その時代の先端技術を体感できる機会でもあります。年初にあたり、各イベントで披露が期待される先端技術に対して、オプトメカトロニクス技術がどのような位置付けとなり得るかを考えてみたいと思います。

東京オリンピック・パラリンピックでは、科学技術イノベーションにより世界を大きく発展させる取り組みとして 9 つのプロジェクトが内閣府より示されています。各 PJ の目標と取り組みの詳細については HP^{*1} の解説に譲りますが、PJ4 次世代次世代都市交通システムや PJ7 移動最適化システム等の PJ にある“人にとってストレスフリーな環境を提供するソリューション”の実現には非接触であり、かつより多くの情報を取得できるセンシング技術が必要となります。特に、光学的なセンシング技術は、五感の中で大きな要素を占める視覚と同じ現象を捉えることが出来るだけでなく、不可視な波長の領域を含む現象を検知し得ることから、人の感覚を超えた領域の繊細なセンシングの実現にオプトメカトロニクス技術の貢献が期待されます。

更に、大きな国際イベントである万国博覧会の 2025 年開催地が他の都市を抑え大阪に決定されました。本万博は「いのち輝く未来社会のデザイン (Designing Future Society for Our Lives)」をテーマとした、「国連が掲げる持続可能な開発目標 (SDGs) が達成された社会を実現した未来社会のビジョンを世界の皆様と共有する機会」になると大阪万博誘致委員会 HP^{*2} で述べられており、この SDGs に設定される 17 の目標を達成するため、我々の暮らし自体を変え得る、まさに人類共通の将来的な課題を見据えた様々な技術とソリューションの提案の場になるでしょう。そして、それら先端技術の実現には、これまで見えなかった事象の可視化・データ化を実現するオプトメカトロニクス技術の重要性が一層高まることが予想されます。

最後に、大阪・関西万博が前回の 1970 年から 55 年後の開催となることは、東京オリンピックが 1964 年から 56 年後の開催であることと不思議な縁を感じます。これは、日本がスポーツと文明の祭典を通じて半世紀後の変遷と進歩を国際的にアピール出来る素晴らしい機会といえるでしょう。

平成 31 年、そして新たな元号元年が皆様にとり素晴らしい 1 年となりますことを、心よりお祈り申し上げ、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

*1. <https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/olymparatf/index.html>

*2. <https://www.expo2025-osaka-japan.jp/>